ＳＯＳの出し方に関する教育　授業案⑦（中学生～高校生）

対象学年：中学生～高校生　※直近で児童生徒の死亡事案が発生した学校における指導

ねらい　：自分と周りの人はそれぞれ違うことに気付き、自分にある強みやよさを自覚することが

できる。

留意点　：直近で児童生徒の死亡事案が発生した学校においては、児童生徒を強い刺激を与えたり、「死」を連想したりするような内容のＳＯＳの出し方に関する教育は避けることが望ましい。そのため、「命を大切に」「自分を大事に」「何かあったら相談を」といった内容は避け、自尊感情や自己肯定感の高める活動を行う。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 活動・内容 | 留意点・スライド番号 |
| 導  入  ５  分 | １　本時のねらいを確かめる。  　〇〔スライド２〕に取り組み、一人ひとりの好みやできることは違うこと、そこに正解はないことを理解する。  自分と周りの人の違いを知ろう。  　〇〔スライド３～５〕から、周りの人との違いが自分の悩みになることを理解する。 | ・〔スライド２〕  ・〔スライド３～５〕 |
| 展  開  35  分 | ２　自分も仲間も得意なこと不得意なことがそれぞれあることを理解する。  〇【ワーク①】に取り組むことを通して、自分の好きなことを可視化するとともに、みんなと違うこと、異なっていることが当たり前であることに気が付く。  〇＜資料＞を見ながら【ワーク②】に取り組むことを通して、好みと強みは人によって異なること、自分の強みを生かすことが大切であることに気が付く。  〇【ワーク③】に取り組むことを通して、不得意なことにはダメなことと下手なことがあり、下手なことがダメでないことに気が付く。  （〇ダメなことと下手なことの違いについてグループで話し合う。）  　〇〔スライド１６・１７〕から「ダメ」と「下手」の違いについて理解する。    　〇生徒の自尊感情や自己肯定感の向上に繋がるような声かけを行う。 | ・〔スライド６～９〕  ＜留意点＞  　　〔スライド８〕を示しながらみんなが同じキャラクターのパーティーでは弱いことを紹介する。  ・〔スライド１０～１３〕  ・〔スライド１４・１５〕  ＜留意点＞  　　【ワーク③】に取り組む過程において、ダメなことと下手なことの違いについて生徒は悩み始めると考える。補足説明などせず、自由に議論させることが大切。  ＜留意点＞  　　活動が停滞した生徒には、＜資料＞の各項目を「できない」と読み替える（例：走る→走ることができない）と「ダメ」か「下手」か分類しやすくなる。 |
| 終  末  10  分 | ３　本時のまとめをする。  〇【ワークシート】に感想をまとめる。 | ・〔スライド１８〕 |